令和3年度

オンライン講座

第 8 回

ブルーノ タウト

- I -

08

2021
8月
No.08

熱海ブルーノ･タウト連盟

タウト塾@熱海

ブルーノ・タウトをめぐる人々

お茶の水女子大学名誉教授

田 中 辰 明

ブルーノ・タウトをめぐる人々

田　中　辰　明

ブルーノ・タウトの系図

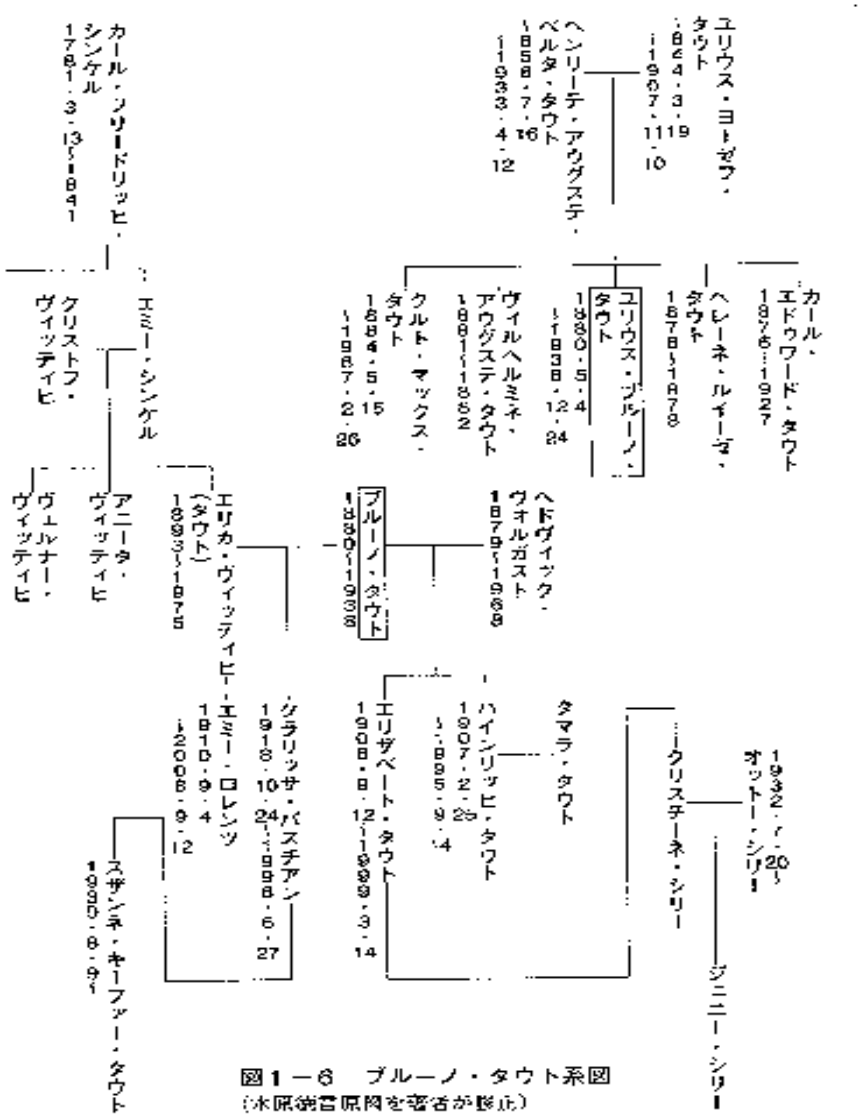


図1－6　ブルーノ・タウト系図
（水原徹著原図を著者が修正）

Bruno Taut　略歴

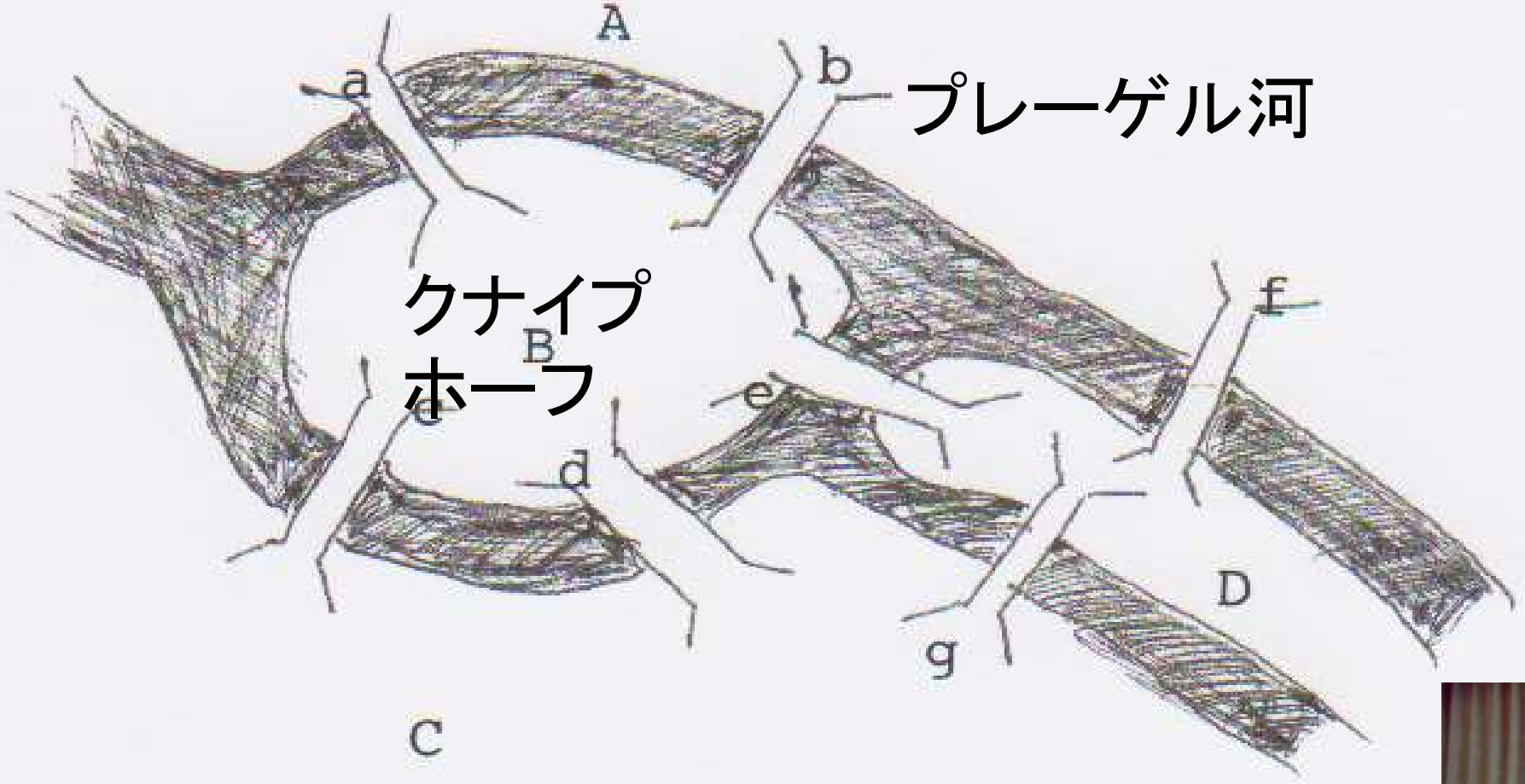
- 1880年　5月4日ケーニヒスベルク生まれ
- 1921年　マクデブルク市建築技師
- 1924年　ベルリン市GEHAGの建築家
- 1930年　ベルリン工大“住宅と住宅団地”教授
- 1931年　ベルリン芸術アカデミー会員
- 1933年　日本移住：主に少林山達磨寺に居住
- 1936年　トルコへ（芸術アカデミー教授）アタチュルク大統領に重用さる。
- 1938年　12月24日死亡（享年58歳）

お茶の水女子大学

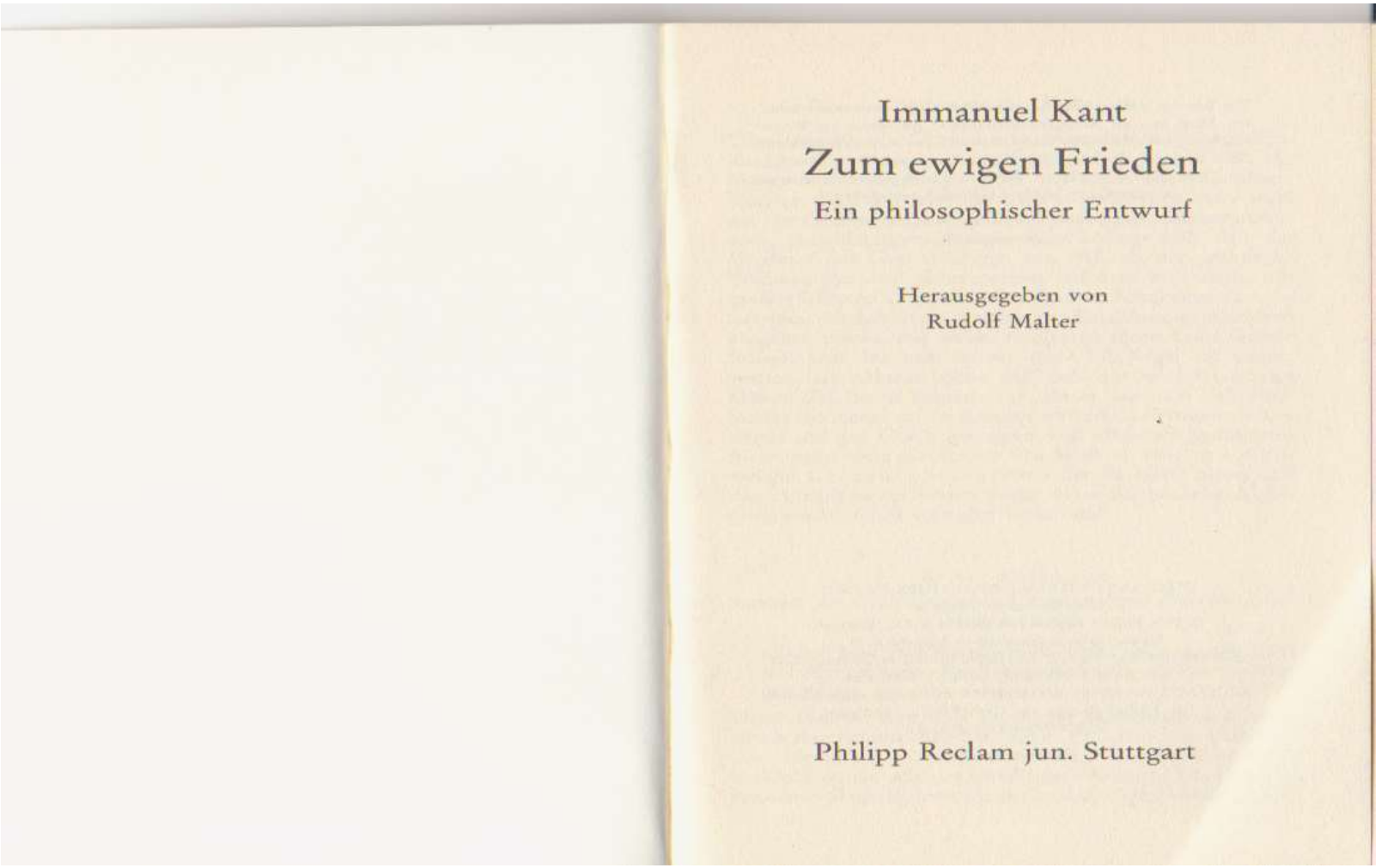
Königsberg(1880-1902)

お茶の水女子大学

ケーニヒスベルクの7つの橋



カント著「恒久平和」



Immanuel Kant

Zum ewigen Frieden

Ein philosophischer Entwurf

Herausgegeben von
Rudolf Malter

Philipp Reclam jun. Stuttgart

27. 10. 11

お茶の水女子大学

カントの言葉

- Der besirnnte Himmel über mir
  das moralische Gesetz in mir
- 星の輝ける大空は我が上に、道徳的規範は我が内に
- カントの実践理性批判“Kritik der praktischen
  Vernunft, 1788“の結びの言葉。カントの墓石にも刻まれている。

タウトは1936年8月27日の日記で引用

お茶の水女子大学

少林山達磨寺
所蔵の短冊

お茶の水女子大学

ケーニヒスベルク出身の有名人

- イマニュエル・カント（哲学者）
- レオンハルト・オイラー（数学者・物理学者）
- ヨハン・ゲオルク・ハーマン（哲学者・文学者）
- ヨハン・ゴットフリード・ヘルダー（哲学者・詩人）
- エーリッヒ・メンデルゾーン（建築家）
- ケーテ・コルヴィッツ（版画家・彫刻家）
- ダーヴィット・ヒルベルト（数学者）
- オットー・ヴァラッハ(化学者）

お茶の水女子大学

タウト３兄弟

タウトのパスポート写真

Wollgast家

Wollgast 家経営の鍛冶屋

タウトHedwig Wollgastと結婚1906

1907年2月長男Heinrich,1908年長女Elisabeth誕生

ケルンのドイツヴェルクブンド展にガラスの家を出展

Der Glaspavillon von 1914
(Wikipedia)

エリカの墓

ZUM GEDENKEN
BRUNO TAUT
1880 — 1938
ERICA TAUT
1893 —
CLARISSA
UNSEREN

Max Taut夫妻の墓Chorin

タウトの日記に出てくる名前の頻度(1)

- 上野伊三郎(建築家・京都・161回)
- 井上房一郎(井上工房主・高崎・118回)
- 下村正太郎（大丸百貨店社長・京都･83回)
- 久米権九郎(建築家・葉山・72回)
- エリカ（タウト伴侶・64回)
- 蔵田周忠（東京高等工芸学校建築家教授・東京・49回)
- ブブノワ夫人(画家・東京・41回)
- 広瀬大蟲（少林山達磨寺住職・35回)
- 上野リチ(上野伊三郎夫人・京都・34回)

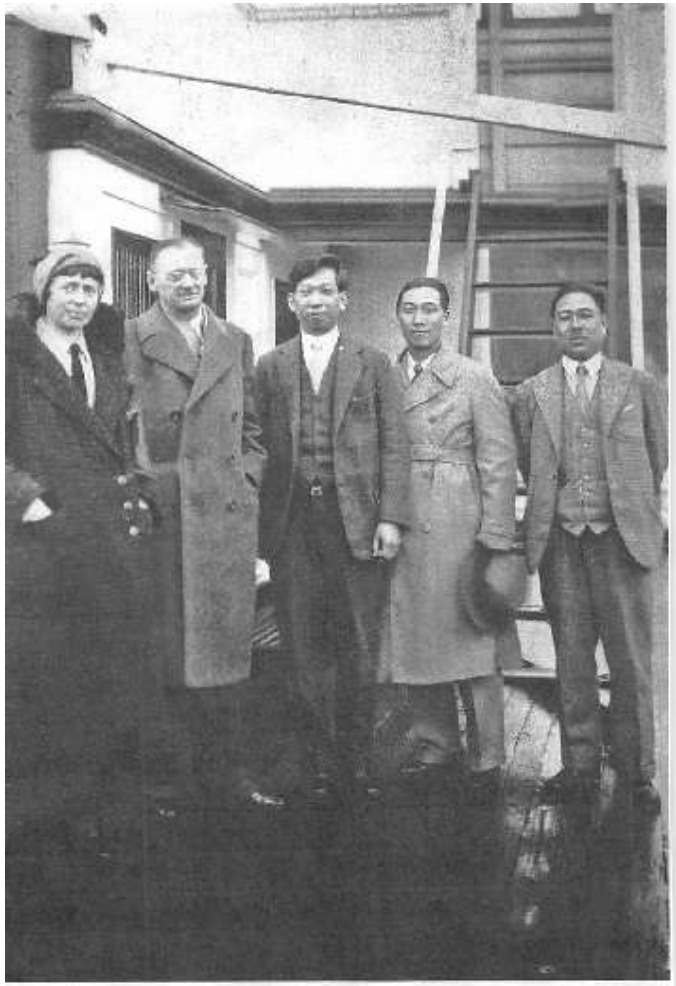
出典：朝雲久児臣（アサグモ・クニオ）：もうひとりのブルーノ・タウト、上毛新聞社

タウトの日記に出てくる名前の頻度(2)

- 広瀬敏子（広瀬大蟲次女・高崎・31回）
- 水原徳言（井上工房職員・高崎・30回）
- 吉田鉄郎（建築家・東京・26回）
- ゴロフシチコフ（ブブノワ婦人の夫・東京・26回）
- 日向利兵衛（建築依頼者・東京・26回）
- 柳　宗悦(美術評論家・東京･20回）
- 斎藤寅郎（東京朝日新聞社記者・東京・17回）
- バーナード・リーチ（陶芸家・英国・12回）

出典：朝雲久児臣著「もうひとりのブルーノ・タウト」上毛新聞社

上野伊三郎(161回)



- 1892～1972、中央が上野伊三郎、タウトが1933年5月3日に敦賀港に天草丸で到着。右は中尾保、右から二人目は中西六郎。中尾保は近畿日本鉄道の生駒山山頂の小都市計画をタウトに持ちかけた。
- 上野はタウトと最も関係の深い人。早大建築学科を1921年に卒業後シャロッテンブルグ工大（現在のベルリン工大）に留学。またウイーン大学でも振動学を学ぶ。ウイーン出身のリチと結婚。日本人としてはまれにみるドイツ語の達人。

上野伊三郎（２）

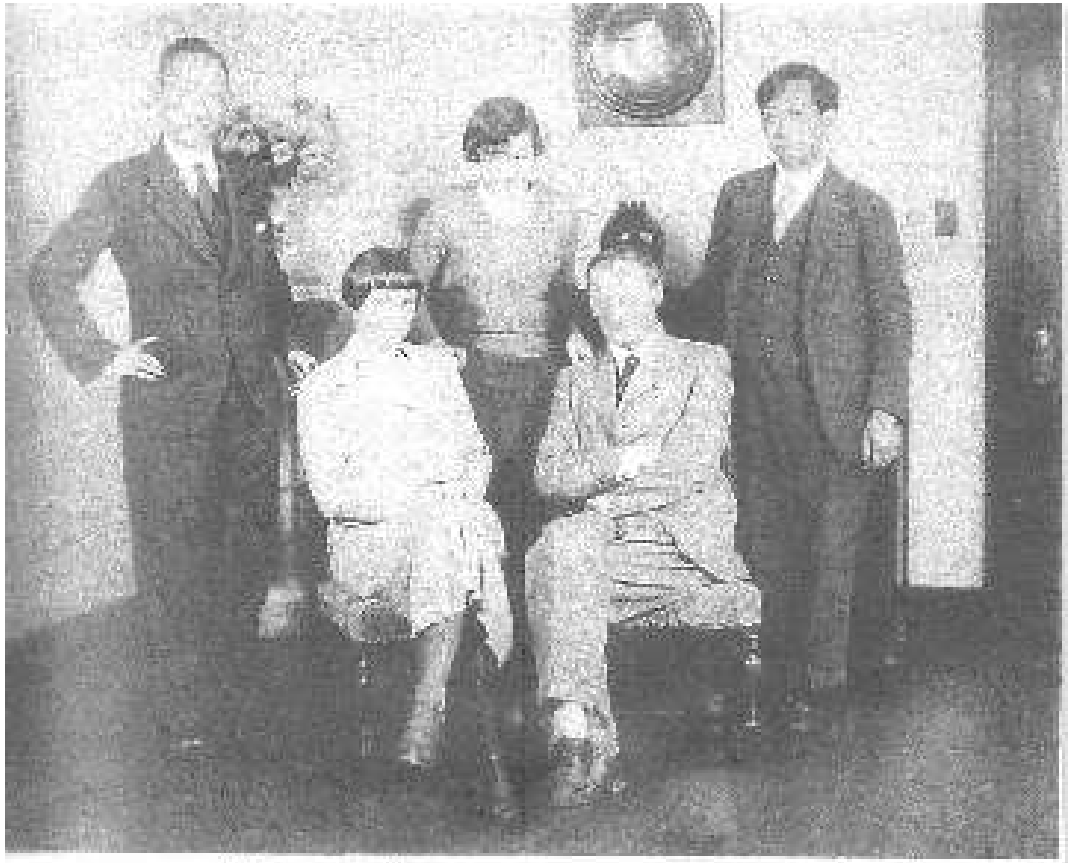
- タウトが日本に到着した翌日の1933年5月4日に桂離宮を案内。
- タウトは桂離宮に感嘆した。かつその日がタウトの53歳の誕生日であった。
- 修学院離宮を案内、伊勢神宮を案内、タウトと東北地方を旅行
- 朝日新聞、東京大学での連続講義に通訳を行った。
- 上野建築事務所を自営する傍ら、摂南工業大学、京都市立美術大学教授
- インターナショナル建築会会長
- タウトに離日を勧めたのも上野伊三郎であった。

井上房一郎（118回）

Bruno Taut (links), Inoue Fusaichirō (Mitte) und Isoya (rechts) in der Werkstatte des *Kōgeisho* in Takasaki. Taut Fotoalbum

- 1898～1993高崎の実業家。早稲田大学商科に入学。1923年パリに留学。タウトの高崎での生活を支えた。銀座のミラテスを作り、タウトの工芸品を販売。井上工業社長。タウトの住居として少林山達磨寺の広瀬大蟲住職に斡旋。

下村正太郎(83回)



- 1883～1944、左が下村正太郎
- 大丸呉服店11代目店主。大丸百貨店として再興。早稲田大学商科入学。タウト来日し、京都の下村邸の客となった。
- タウトの桂離宮訪問も同行している。

久米権九郎(72回)

Hakone, Haus Mitsui. Von rechts: Kanta, Baron Mitsui, Fritz, kleiner Sohn Mitsui, dahinter Frau (Gewitterwirt), Frau in Kimono (vielleicht Frau Mitsui), Tsuji, Foto Tsuji

- 1895～1965、右が久米権九郎
- 箱根の三井家別荘を訪問した時の写真

父親は皇居の二重橋を設計した久米民之助。群馬県沼田出身で群馬県に人脈を持つ。Stuttgart大学に留学。1932年久米建築事務所(現在:久米設計）を開設。金谷ホテル、万平ホテルなどを設計

エリカ(64回)

- 1893～1965タウトは1915年以降ブランデンブルグの火薬製造所で軍務につき、部下のエリカ・ヴィティヒと知り合い、同棲。娘クラリッサを生む。1933年タウトと共に来日、
- タウト夫人でとうす。自由学園でドイツ料理を教授。
- タウトの死後、デスマスク、著作、その他遺品をトルコから少林山達磨寺に届けた。

蔵田周忠(49回)

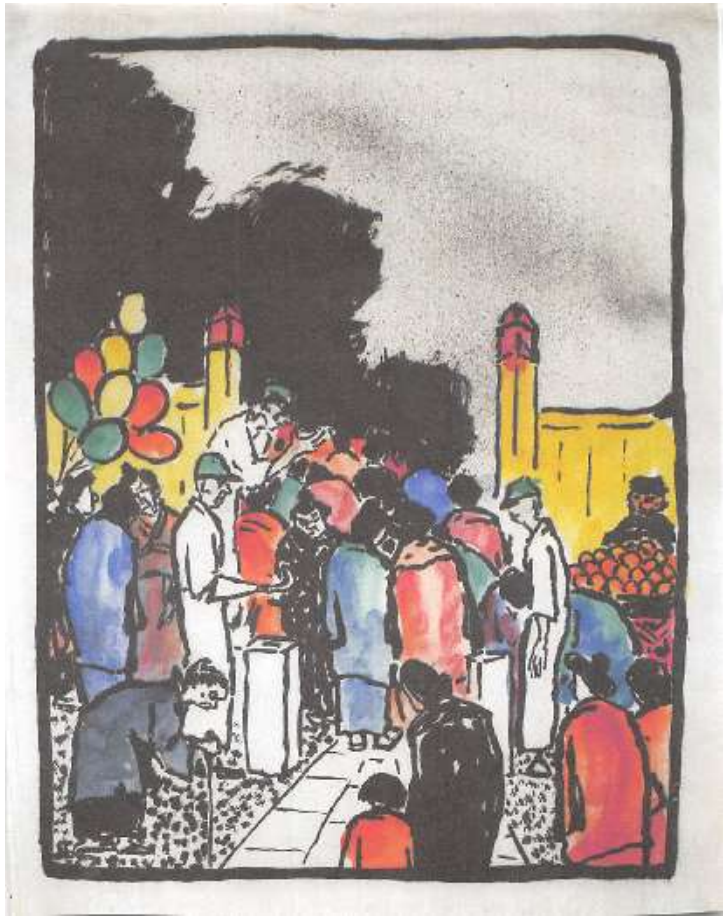
- 1895～1966、工手学校(現在の工学院大学)卒業後早稲田大学建築学科選科を卒業。1930年にドイツに留学し、建築を学ぶ。バウハウスやグロピウスのモダニズムの作品に接した。武蔵工業専門学校教授、後に武蔵工業大学教授。「ブルーノ・タウト」（相模書房）を出版。タウトが少林山に建築学校を創ろうとした際に協力。主な作品に、多摩聖蹟記念館、安川大五郎邸、山口市庁舎、杉並区立公民館など。

ブブノワ夫人(41回)

Taut bei Bubnowa in Tokyo. Von rechts: Bruno Taut, Barbara Bubnowa, Erica Golowschikow, Isaac Yoshiko, Sachurin von Frau Behnisch, Taut Fotoaufnahme

- 1886～1983、帝政時代のロシアのサンクトペテルベルク生まれ。日本文化にあこがれ、1922年来日。日本で二科展に出展、本格的な美術活動を行った。ドイツ表現主義の影響あり。早稲田大学露文科講師を長く務める。タウトと親交があり、高崎から上京するとブブノワ邸を宿とした。

ブブノワ夫人



広瀬大蟲(35回)

- 1878～1968、少林山達磨寺１６代住職、広瀬正史現住職の祖父。達磨寺の中興の祖。タウトが住居を定めるにあたり、久米権九郎、蔵田周忠の２名が高崎の実業家井上房一郎に依頼し、井上が大蟲住職に依頼し、居住がきまった。

上野リチ(34回)

Restaurant Saga, Arashiyama, Kyōto. Mittagessen nach dem Bootsausflug. Von links: Lizzi Ueno-Fux, Erni Gartner (?), Frau in footballer Kimono, Kitsu, Shirasumiya, Inue, Ueno Inaburo

- 1893～1967左が上野リチ、右は上野伊三郎、右から３人目は下村正太郎。上野伊三郎夫人。
- ウイーン生まれのオーストリア人。ウイーン工房でテキスタイルを初めとする装飾デザインを実施。上野伊三郎と結婚し、京都に住んだ。

広瀬敏子（31回）

- 1917～2000、少林山達磨寺広瀬大蟲住職の次女。タウトはエリカとの娘クラリッサをドイツに残して来日した。クラリッサと敏子は同年の生まれであった。敏子はタウトとエリカの面倒をよく見た。洗心亭の床の間の花を毎日代えた。タウト離日に当り、敏子は東京駅から横浜駅までタウト、エリカに同行した。

水原徳言(30回)

1911～2009、1930年井上房一郎が高崎で始めた工芸品製作活動に参加、タウトが高崎に滞在し、工芸品制作の指導に関わるようになった際、共同制作者として参加。タウトの唯一の弟子と言われる。タウトの経歴調査に貢献した。

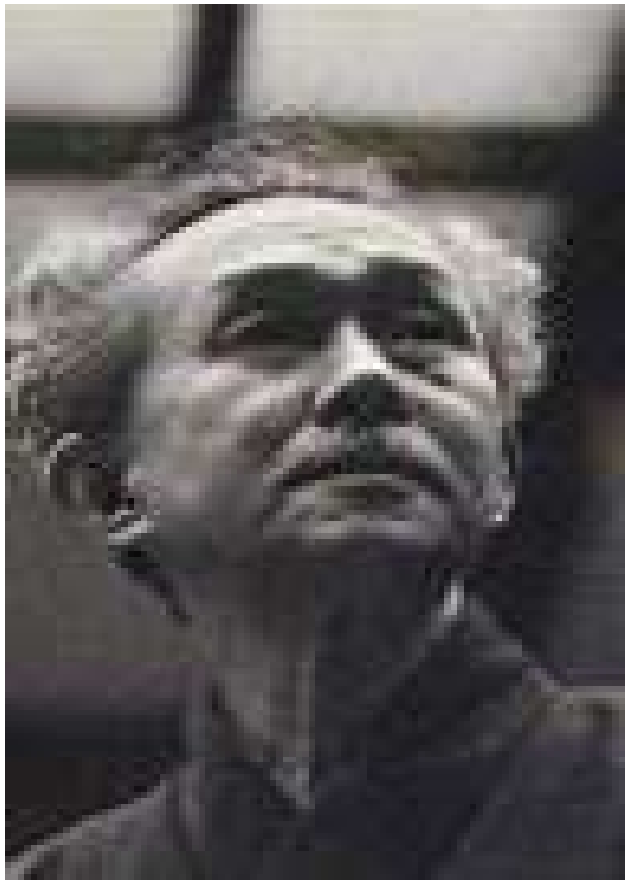
吉田鉄郎(26回)

- 1894～1956、富山県福野町の郵便局長五島寛平３男として誕生東京帝国大学建築学科卒業、逓信省経理局、営繕課に就職、同年吉田芳江と結婚、吉田姓を名乗る。逓信省には山田守がおり、逓信省建築の全盛を築いた。日大教授。「日本の住宅」を独文で書いた。タウトと親交があった。

日向利兵衛(26回)

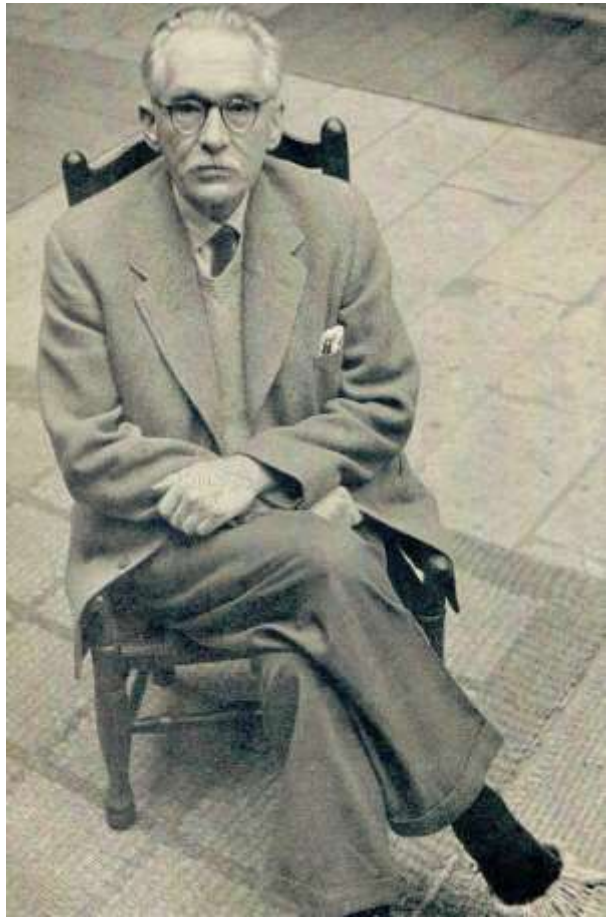
1874～1939、大阪の実業家で、極めて高い工芸的芸術性のある家具類を販売する「唐木屋」の一人息子として生を享けた。語学力と幅広い人脈を駆使して貿易活動を行い、特にアジア貿易で財をなした。美術、建築に造詣が深く、紫檀、黒檀など高級品の貿易を手掛けた。銀座のミラテス工芸店でタウトがデザインした電気スタンドを購入し、日向別邸の地下室設計につながった。

柳宗悦(20回)



- 1889～1961、民芸運動を起こした思想家、美術者、宗教哲学者。志賀直哉、武者小路実篤らと旺盛な白樺派の創作活動を行う。陶芸家の浜田庄司と交友あり。民芸運動の母体となる「日本民芸協会」を設立。初代日本民芸館館長。
- 1934年12月27～28日洗心亭でタウト、柳宗悦と共に芸術論を交わす。

バーナード・リーチ(12回)



Bernard Howell Leach(1887～1979）英国人の陶芸家であり、画家、デザイナー・日本をたびたび訪問し、白樺派、民芸運動にかかわりが深い。日本民芸館設立に当り、柳宗悦に協力。1934年12月27～28日洗心亭でタウト、柳宗悦と共に芸術論を交わす。

篠田英雄(11回)

- 1897～1989、日本の哲学者、翻訳家、東京帝国大学哲学科卒業。1934年にブルーノ・タウトと知り合う。38年タウト没後、日本に関する著作、日記の原稿をタウトの伴侶エリカから託され、その整理と翻訳に当った。
- 「日本美の再発見」（岩波書店）1939、桂離宮、タウト全集第１巻、育成社弘道閣1943、美術と工芸、タウト全集第3巻育成社弘道閣1943、日本雑記　タウト全集　第２巻、育成社弘道閣1943、日本の家屋と生活、吉田鉄郎共訳、雄鶏社1949、日本タウトの日記1950-59岩波書店、他多数

ご清聴ありがとうございました。

URL:http://tatsut.org

令和3年度
オンライン講座
第 8 回
ブルーノ タウト
- I -
08
2021
8月
No.08
熱海ブルーノ・タウト連盟
タウト塾@熱海
ブルーノ・タウト
をめぐる人々
お茶の水女子大学名誉教授
田 中 辰 明

No.08 END